

[文中にパーセンテージで示した数値は、特に断りのない場合は、学校評価アンケート（生徒対象）において「そう思う」「だいたいそう思う」と肯定的に回答した生徒の割合を合計したものである。]

▼ 令和4年度の取組目標等に関する自己評価と次年度以降の改善の方向性

(1) 希望進路実現に向けた学習指導の充実（学習指導・進路指導）

- 授業理解度74%と授業満足度77%と目標値には達しなかった。また、「学びのサイクル」の定着については、肯定的回答が38%と低かった。生徒による授業評価アンケートでも「授業の準備（予習や復習など）をしている」も1年次生49%、2年次生48%、3年次生56%と約半数にとどまっている。次年度以降は、家庭学習時間等の確認指標を検討する。また、生徒や保護者からの「課題が多い」との自由意見を踏まえ、教科等で「自発的な学習」を促す工夫を検討していく。
- 大学入学共通テスト得点率7割以上の生徒は34名であった。今後、成績上位層への効果的な指導により一層の伸長を目指す。また、習熟度別授業の利点を生かし、成績上位層と下位層それぞれに対する指導の充実を図る。
- 授業の相互参観や授業中のグループ・ワークや話し合いによる「主体的・対話的で深い学び」はその機会が増えている。今後、大学入学共通テストの得点力向上のために、教科等を中心に工夫改善を進めていく。

(2) 授業等におけるデジタル技術の活用（学習指導・進路指導・学校運営）

- ICT及び一人1台端末、学習支援アプリ等の適切な活用については、授業やホーム・ルーム、勉強合宿などの学校行事で活用されたが、個々の担当者や年次担任での取り組みにとどまっている。今後、「総合的な探究の時間」や進路指導、学習支援アプリの配信等、教科や分掌での組織的な活用を推進していく。

(主な数値目標) (アンケートの数値は「そう思う」「だいたいそう思う」と回答した生徒の割合)

項 目	3年度実績	4年度目標	4年度実績
学校評価アンケート①で「墨田川の授業は分かりやすい」とする生徒の割合	74.1%	80%以上	73.9%
学校評価アンケート②で「墨田川高校の授業は進学や受験に向けた内容となっている」とする生徒の割合	78.1%	85%以上	77.6%
大学入学共通テストで7割以上得点した3年次生の割合	19.4%	35%以上	11.9%

(3) 大学進学実績向上のための進路指導の充実（進路指導）

- 長期休業中の補講等はオンラインも含め100講座を超えたが、大学進学実績は、昨年度を下回る見込みである。成績上位層は一定程度存在するが、学校推薦型選抜(指定校推薦)に流れたり、秋口以降から国公立大学志望者が約3割減少したりするなど、諦めさせない指導を継続することができなかった。
- 年間5回の模試分析会等の実施や進路指導部と年次進路担当者との週1回以上の打ち合わせなど情報交換を密に行うなどの組織的な取組により、進路指導満足度は78%でほぼ目標値を達成した。
- 今後、進路指導の年間計画を見直し、目標を明確にした組織的指導を推進していく。特に、各教科共通の課題を協議し管理職への報告・相談等を行ったうえで、職員会議等で解決に向けた方向性を共有するなど教科会の充実を図る。また、模擬試験の結果を十分に活用しながら効果的な進学指導等を実践するために、年間3回以上の面談週間を設定し、進路面談を充実させるとともに、上位層の生徒に対し国公立大学を諦めさせない指導を継続できるよう進路指導部と年次担任とで組織的に取り組んでいく。合わせて2年次の夏季休業を活用して第一志望校を早めに決定させるとともに、2年次の秋以降の進路指導を充実させ、1～3月を受験0学期ととらえ、生徒が、志望大学・学部・学科等を明確に意識した受験準備に当たれるよう指導する。
- 上記の取組をより充実させ、生徒の大学進学への意欲を高めるため、探究推進部を新設し、「総合的な探究の時間」の充実を図り、3年間を見通したキャリア教育の充実を図っていく。また、その成果を活用した総合型選抜への指導体制の充実を図る。

(主な数値目標) (アンケートの数値は「そう思う」「だいたいそう思う」と回答した生徒の割合)

項 目	3年度実績	4年度目標	4年度実績
国公立大学現役合格者数	27名	35名以上	15名
難関私立大学(早慶上智理)現役合格者のべ数	36名	35名以上	14名
私立大学(GMARCH)現役合格者のべ数	109名	100名以上	90名
学校評価アンケート⑦で「墨田川では自分の将来を考えるために、必要な進路指導が行われている」とする生徒の割合	77.4%	80%以上	78.2%

(4) 学校行事と部活動の充実（生活指導・特別活動）

- 新型コロナウイルス感染拡大に十分注意しながら、体育祭、七高祭、合唱祭、2年次生修学旅行、校外学習等の学校行事をほぼ感染拡大前と同等の規模で実施することができた。そのため、学校行事の満足度は生徒・保護者ともに90%と高かった。
- 学校生活満足度は82%、自主的・主体的活動に関する肯定的評価は84%と僅かに目標値を達成できなかった。今後も、生徒が自主的・自発的な活動が行えているという実感と充実感を得ることにより、生徒の学校生活や行事満足度をより高めていけるよう生徒指導部と年次担任団が連携して指導を工夫改善していく。

- 部活動の満足度は、生徒・保護者とも82%程度であった。「部活動に関する総合的なガイドライン」に基づく部活動と学習の両立に向けた指導を行ってきたが、心の不調による保健室利用者が一定程度存在することが課題である。今後とも、学習と部活動等との両立を図る指導を継続していくとともに、教科や年次担任団による課題の分量の把握や調整を行っていく。
- 「墨田川では、服装、遅刻、挨拶、登下校時のマナー等の生活指導が徹底されている」の肯定的回答は81%と高かったが、「墨田川の生活指導は、生徒の理解や納得が得られている」は保護者の回答は69%だったのに対し生徒の回答は48%にとどまった。今後、校則や細かい規則のあり方について、生徒会を中心に生徒の意見を集め、生徒が自律的に行動できるよう見直していく。
- 墨水会、美汀会等と連携し、創立百周年記念式典を無事終了することができた。今後、墨水会による図書館備品等の改修及び自習室整備、部活動支援等の記念事業を円滑に進めていく。

(主な数値目標) (アンケートの数値は「そう思う」「だいたいそう思う」と回答した生徒の割合)

項 目	3年度実績	4年度目標	4年度実績
学校評価アンケート⑩で「墨田川での学校生活は充実している」とする生徒の割合	79.2%	85%以上	81.6%
学校評価アンケート⑭で「墨田川では、生徒による自主的・自発的な活動が行われている」とする生徒の割合	72.4%	85%以上	83.5%

(5) 健康・安全教育と相談体制の充実(健康・安全教育指導)

- カウンセラーの積極的活用の周知や担任等の相談体制の充実、年間20回に及ぶ特別支援委員会やケース会議等の開催など組織的な取組により、相談体制についての生徒の肯定的評価は72%と昨年度比16ポイント増となり目標値を達成した。今年度、保健室利用の時期等を分析し、年次や性別等による傾向を明らかにしたことは大きな成果であった。今後は、年間3回以上の面談週間を効果的に活用し、時期に応じた相談体制を確立するとともに、スクールカウンセラー等の専門家と連携し、学習と部活動等との両立を図る指導を継続していく。
- 心の不調による保健室やカウンセラー相談利用の時期と傾向を分析し教職員間で共有した。今後も、カウンセラーによる自殺予防やジェンダーに関する講演会等を充実し、教員の対応力を向上させていく。「いじめアンケート」については確実に実施できた。

(数値目標) (アンケートの数値は「そう思う」「だいたいそう思う」と回答した生徒の割合)

項 目	3年度実績	4年度目標	4年度実績
学校評価アンケート⑪で「墨田川では、自分の悩みなどを相談できる相手や機会が備わっている」とする生徒の割合	55.9%	70%以上	71.6%

(6) 生徒募集活動の積極的展開（生徒募集・広報活動）

- 中進対第一志望調査の志望予定者数は349名（1.1倍）で目標を達成できなかったが、学校見学会、学校説明会、自校作成問題対策会等による来校中学生はのべ1989名、塾指導者対象説明会を含めた来校保護者等は1315名といずれも目標値を2割程度上回った。
- 推薦に基づく選抜の応募人員は、163名（2.6倍）と目標値と昨年度を下回った。また文化・スポーツ特別推薦の応募者数は、サッカー4名、柔道3名の計7名にとどまった。今後、文化・スポーツ特別推薦の生徒募集の対策と対象種目及び募集人員について検討していく。
- 学力検査に基づく選抜の最終応募人員は、346名（1.37倍）と昨年度を上回ったが、目標値を達成できなかった。今後、来校中学生等の個人別来校時期や回数等の調査結果等を分析し、進学重視型単位制高校及び進学指導推進校の特色をより効果的に発信し、第一志望生徒の増加を図る。
- 学校ホームページは、12月によりやくリニューアルを完了したが、「学校公式ホームページが充実している」の肯定的回答は生徒49%、保護者63%にとどまっている。情報発信の頻度や方法等には課題が残った。部活動や学校行事等、本校の特長をより効果的に発信できるよう改善していく。

(主な数値目標)

項 目	4年度入試実績	5年度入試目標	5年度入試実績
東京都中学校長会進路対策委員会による志望予定（第1志望）調査の志望倍率	1.10倍	1.30倍	1.10倍
推薦に基づく選抜応募倍率	2.64倍	3.00倍	2.55倍
学力検査に基づく選抜最終応募倍率	1.27倍	1.50倍	1.36倍
学校見学会、学校説明会、高校入試ガイダンス、自校問題対策会、夏季休業中の学校見学会、放課後の学校説明会、塾対象説明会での来校中学生・保護者・教員等のべ数	中学生1413名 保護者・指導者等 948名	中学生1600名 保護者・指導者等 1000名	中学生1989名 保護者・指導者等 1315名

(7) 学校組織運営

- 年次担任業務の軽減のために、校務全般において課題を洗い出し改善計画を進行している。特に、総合的な探究の時間が年次担任の大きな負担感となっていることから、次年度は新たな校務分掌として「探究推進部」を新設し、計画的・効率的な探究活動を推進していく。また、このほかにも副担任機能の強化による担任業務の軽減など、相互に協力し合う職場風土の醸成に努めていく。
- 夏休の完全消化、学校閉庁日の実施等、教職員のライフ・ワーク・バランス実現に向けた意識は高まりつつあるが、一部の教員の在校時間の長さは課題である。また、「教員の働き方改革に取り組んでいることを知っている」保護者は27%と周知や協力への依頼を推進していく必要がある。

- 家庭からの欠席連絡をメールで行うことにより、朝の時間帯の電話が減少した。また、午前8時以前と午後5時以降に留守番電話機能を設定した。
- 学校運営連絡協議会の意見や学校評価アンケートの結果を適切に公開・検討していくとともに、教員研修等において有効に活用していく。
- 個人情報の保護や情報セキュリティに対する教職員の意識向上、教育公務員としてのサービスの厳正について指導し、体罰やサービス事故を根絶するためのサービス事故防止研修や管理職による指導を年間5回実施した。
- 効率的に予算を執行するとともに、センター執行率の高い効果的な予算編成を行うよう努めてきたが、学習教材や会議資料のペーパーレス化の推進には課題を残し、印刷経費の増大は自律推進予算を圧迫するまでに至っている。コスト意識を高め、業務の効率化を図る職場風土の醸成が必要である。また、学習環境の整備と効果的な生徒募集対策のために、施設・設備の点検や修繕を要望していく。特に、校舎の老朽化に伴いトイレ等の施設改修を引き続き要請していく。

(数値目標) (アンケートの数値は「そう思う」「だいたいそう思う」と回答した生徒の割合)

項 目	3年度実績	4年度目標	4年度実績
学校評価アンケート⑰で「墨田川では、施設はよく整備されており、学習環境が整っている」とする生徒の割合	56.8%	50%以上	46.6%

以 上

【参考資料】令和5年度学校経営計画では「中期的目標」に位置付け整理していきます。

令和4年9月28日
統括校長 渡邊 範道

「墨田川ビジョン2025」とビジョン実現のための主な取組

I 「墨田川ビジョン2025」で目指す学校像

本校は、今年創立百周年という一つの区切りを迎える。次の百年に向けた最初の一步として、現状を踏まえた今後3年間に目指すべき学校像を示す。その実現ために現状の課題を把握した上で、その改善策を検討して一定の方向性を明らかにし、次年度に向けた改善策を年度内に決定する。

1 本校のスクール・ミッション（令和3年度策定）

明澄な知性、創造への努力、自他の敬愛と自律の精神を教育目標とし、生徒自身による「学びのサイクル」の実践で、高い学力を身に付け、進路希望の実現を図り、様々な教育活動を通して創造意欲・協働意識を高め、新しい社会を切り拓くリーダーにふさわしい能力を備えた生徒を育成します。

2 今後3年間で目指す学校像「墨田川ビジョン2025」

- (1) 「知性—明澄な知性、創造—創造への努力、自主—自他の敬愛と自律の精神」の教育目標を踏まえ、「全人教育」とその実現に向けて「文武不岐」を掲げる学校。【 伝統の継承 】
- (2) 「進学重視型単位制高校」の特長を生かし、「進学指導推進校」としての役割を果たす成果を挙げる学校。【 進学実績の向上 】
- (3) 「総合的な探究の時間」を核とした生徒の進路意識の向上及び学問的探究意識の育成と、生徒が自己の進路実現に向けて主体的かつ意欲的に学ぶこととを、相乗的に発展させることができる学校。【 キャリア探究と進学指導の効果的な連携 】
- (4) 「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」や「社会に開かれた教育課程」など、今次の学習指導要領改訂の趣旨を実現するとともに、国際化やIT化の進む新しい時代の教育に向けた持続可能性を有する学校。【 学習指導要領の趣旨の実現 】
- (5) 教職員が明確な目標に向けて互いに協働して効率的に職責を果たしながら、柔軟かつ新たな発想で業務改善に努め、教育課題の解決に意欲をもって取り組むことができる学校。
【 教職員の協働と効率的な業務遂行、柔軟かつ新たな発想による業務改善、ライフ・ワーク・バランスの実現 】

3 「墨田川ビジョン 2025」を実現するための主な取組

- (1) 「知性—明澄な知性、創造—創造への努力、自主—自他の敬愛と自律の精神」の教育目標を踏まえ、「全人教育」とその実現に向けて「文武不岐」を掲げる学校。【 伝統の継承 】
- 進学に向けた学習と学校行事・部活動を両立できる生徒の育成
 - 学校行事等において主体的・協働的に活動できる生徒の育成
 - 生徒の心身の自己管理能力を高めるための健康教育の推進と関係機関との連携
- (2) 「進学重視型単位制高校」の特長を生かし、「進学指導推進校」としての役割を果たす成果を挙げる学校。【 進学実績の向上 】
- 習熟度別授業や少人数指導、多様な選択科目の設置等進学重視型単位制高校の特徴を生かした授業の一層の充実
 - 長期休業中、放課後、土曜日を活用した講習、補習等の計画的な実施
 - 熱意と実績のある指導力の高い教員の確保と育成
- (3) 「総合的な探究の時間」を核とした生徒の進路意識の向上及び学問的探究意識の育成と、生徒が自己の進路実現に向けて主体的かつ意欲的に学ぶこととを、相乗的に発展させることができる学校。【 キャリア探究と進学指導の効果的な連携 】
- 「探究推進部」(仮称)の新設による外部機関との連携や外部人材を積極的に活用した「総合的な探究の時間」の推進
 - 進路行事、科目選択、「総合的な探究の時間」の連関により、早期に受験準備を開始させるための3年間の進路指導計画の改定
 - 進路意識啓発と志望校選定に向けてのきめ細かな進路面談の実施
- (4) 「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」や「社会に開かれた教育課程」など、今次の学習指導要領改訂の趣旨を実現するとともに、国際化やIT化の進む新しい時代の教育に向けた持続可能性を有する学校。【 学習指導要領の趣旨の実現 】
- 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた不断の授業改善
 - 英語4技能伸長を基礎に海外姉妹校交流や海外語学研修を目指す国際理解教育の推進
 - 授業や進路指導における一人1台端末の効果的な活用と情報活用能力の育成
- (5) 教職員が明確な目標に向けて互いに協働して効率的に職責を果たしながら、柔軟かつ新たな発想で業務改善に努め、教育課題の解決に意欲をもって取り組むことができる学校。【 教職員の協働と効率的な業務遂行、柔軟かつ新たな発想による業務改善、ライフ・ワーク・バランスの実現 】
- 前例踏襲や創意工夫のない業務慣行に陥らない職場風土の醸成
 - 業務の精選と協働による効率的な校務運営の実現
 - 若手教員の創造力、発信力、企画力を高めるための人材育成の推進
 - 調査結果等根拠に基づいた教育課題改善の推進
 - ITを活用した校務の一層の効率化
 - 「学校における働き方改革推進プラン」に基づき、長時間勤務の是正と教職員の意識改革を図る「ライフ・ワーク・バランス」の推進

以上